



ニュースレター

# SDM NEWS



2012年度デザインプロジェクト最終発表会会場にて

12

2012年 月号

## 行事予定

2013年1月6日(日) 10:00 ~ 13:00  
慶應イノベティブデザイン  
スクール(KiDS) 新春特別企画  
「利他思考で世界を変えるシステム  
デザインワークショップ」

@日吉キャンパス協生館  
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/01/06-133740.html>

要事前登録 有料

2013年1月16日(水) 19:00 ~ 20:30  
慶應SDM公開講座「ココロの刺し方  
~人の心に刺さる企画をつくらう~」

講師: 内田伸哉氏  
@日吉キャンパス独立館 D201教室  
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/01/16-111113.html>

要事前登録 無料

2013年3月4日(土) 13:00 ~ 17:10  
第5回環境共生・安全システムデザイン  
シンポジウム「脳と心と幸福を考える」

@日吉キャンパス協生館 藤原洋記念ホール  
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/03/04-164319.html>

要事前登録 無料

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。

[http://www.keio.ac.jp/ja/event/201212/201212\\_index.html](http://www.keio.ac.jp/ja/event/201212/201212_index.html)

通算49号 2012年12月発行

**SDM**  
System Design and Management

<http://www.sdm.keio.ac.jp/>

## 専任教員からのメッセージ

### 2012年の最後は学者も政治家も 走る月になりました



師走に入り、日本で政治を研究している人間にとって数年に一度起こる大イベントが到来しました。総選挙です。開票10日前の現在、ワールド・カップとクリスマスとオリンピックを一緒にしたような興奮を感じています。今回はめまぐるしい新党の誕生、記録的な立候補者数、また3.11以降初めて行う、重大争点目白押しの選挙となります。SDMの講義でも、学生とともに各政党の次期選挙マニフェストの定量的な比較検証や特定選挙区での候補者たちの選挙戦略シミュレーションを演習しました。

当然ながら、このような政治に対する学問的「ワクワク」感は巷の有権者にはあまり共有されていないでしょう。逆に「政党が多くて選びにくい」、「政策が曖昧で分かりにくい」と言われ、離散集合する政治家や日替わりになる公約への不信も強いようです。我々政治学者は政党制度がなぜ不安定になり、公約が実現されないのか、問題の構造とその解決案を提示する責任があると思います。今回の選挙もそのような政治システムを理解する上でのデータの宝庫になるでしょう。政治の機能不全をシステム設計の構造と作用の問題として捉え、SDMの皆様と一緒に日本の統治機構をリ・デザインするための知見を深めるよう頑張ってください。

本年度もSDMへのご支援とご厚意、誠にありがとうございました。来年もよろしくお願ひ申し上げます。よいお年を。

SDM研究科准教授 ヒジノ ケン・ビクター・レオナード

## 最近のニュース

TOPIC

### 1 集中講義「モデル駆動型システム開発の基礎」



受講生との集合写真(写真前右より、西村教授、Balmelli氏)

2012年10月24日 ~ 30日にわたり、Dr. Laurent Balmelliと西村秀和教授による「モデル駆動型システム開発の基礎」の集中講義が協生館3階C3N14教室で行われた。この講義は、GCOE特別講義によるもので、約20名の方が受

講登録し、モデルベースアプローチで複雑な製品やサービスをシステムとして設計・開発する方法を学んだ。システムのモデルを記述する一つの方法である、システムズモデリング言語SysML (Systems Modeling Language) を援用して、図的に、システムの構造、振る舞い、要求、制約を表現することで、設計・開発者の思考を整理することができ、効率的にシステムズエンジニアリングプロセスを進めることができる。

受講者は、基本的なシステムズエンジニアリングを学び、製品開発に共通のプロセス、すなわち、要求管理・ユースケース分析・設計変更管理・トレードオフ分析などについて、各自がもつテーマをもとにモデルベースアプローチの観点から検討した。Dr. Laurent Balmelliは自身が進めるアフリカでの技術投資とビジネスに関連して、稲作を事例として紹介した。

## TOPIC 2 国際宇宙ステーション長期滞在中の星出宇宙飛行士とリアルタイム交信を実施



会場からの質問に答える星出彰彦宇宙飛行士

SDM研究科は、国際宇宙ステーション(ISS)に長期滞在中の星出彰彦宇宙飛行士(熟員)とのリアルタイム交信を2012年11月6日に実施し、協生館で2つのイベントを開催した。

3階のCDF教室ではISSとの高臨場感リアルタイム交信として、ISSから送られてきた映像に対して2D/3D変換を行い、180インチ4K3Dディスプレイに疑似3D映像として表示するとともに、協生館内の藤原洋記念ホール、仮設プラネタリウムの他、東京大学、京都大学、世田谷区、南三陸町の各会場に同時配信し、多地点会場を相互接続したパラレル・リアリティとしての宇

宙交信を実現した。また、同教室では「情報技術と宇宙技術」と題したイベントを開催し、小木哲朗教授、立山義祐大学助教、JAXA福田義也氏、SDM博士課程大塚聡子氏、SDM研究所日比谷孟俊顧問より、ISSおよびリアルタイム交信を実現するための情報技術に関する解説が行われた。リアルタイム交信は22時から30分間程度実施し、SDM研究科の学生および、世田谷区、南三陸町の小中学生が予め用意した質問をもとに星出彰彦宇宙飛行士とやりとりを行った。

一方、藤原洋記念ホールでは、一般社団法人Think the Earthとの共催で、ISSやこれからの宇宙開発について第一人者が分かりやすく解説する第6回連続宇宙公開講座「宙(そら)のがっこう」を開催した。神武直彦准教授、Think the Earth代表上田壮一氏、SDM研究所狼嘉彰顧問、JAXA矢野創助教、多摩美術大学久保田晃弘教授による講演およびパネルディスカッションが行われた。

なお、リアルタイム交信は、ISSと中継衛星の切替中断などのハプニングもあり、NASA、JAXAお

よび関係機関の協力のもと予定時間を超える交信がなされた。このイベントには300名以上の来場者があり、Ustreamでも配信がなされ、600名以上の方がリアルタイムでイベントを視聴した。

「情報技術と宇宙技術」Ustreamアーカイブ:

▶ <http://www.ustream.tv/channel/keiosdm1>

「宙(そら)のがっこう」Ustreamアーカイブ:

▶ <http://www.ustream.tv/channel/keiosdm2>

読売新聞:

▶ [http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/special/astonaut/as20121107\\_01.htm](http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/special/astonaut/as20121107_01.htm)



各地に配信されたリアルタイム交信の様子

## TOPIC 3 マネジメントデザインセンター設立記念シンポジウムを開催



パネル討議の様子

SDM研究科に、新しい教育研究拠点として「マネジメントデザインセンター」が設立されたことを記念して、『グローバルビジネスに打ち勝つ海外展開プロジェクトへの人材育成』と題したシンポジウムを2012年11月13日、藤原洋記念ホールにて開催した。

シンポジウムでは、基調講演として千代田化工建設株式会社の代表取締役社長 久保田隆氏に、「プロジェクトマネジメントにおける人材

要件—海外大型エネルギープラントの実例—」をお話いただき、続いて国際協力機構(JICA)および横浜市より、「環境都市とインフラ海外展開」というテーマで、実例を交えた具体的な話を伺うことができた。

企画の最後に行われたパネル討議では、人材育成としての大学の立場の重要性について議論され、慶應SDMのプロジェクトマネジメント教育がもたらす成果への期待が一層高まるものとなった。

## TOPIC 4 プロジェクト・マネジャー能力強化研修が無事終了



真剣な面持ちの受講生

上記のシンポジウムを皮切りに、本年度のプロジェクト・マネジャー能力強化研修がスタートし、合宿制の5日間の研修(実施日:11月13日~15日、12月5日~6日)が12月6日、幕を閉じた。今年で4回目を迎える本研修は、例年通り当麻哲哉准教授がコーディネーター、高橋良之非常勤講師がチーフトレーナーとして企画、実施され、参加者は様々な業界から集まった受講者13名と慶應SDMの社会人学生4名を含む17名に、聴講の学生4名を加えた計21名となり、過去最大の活気ある研修となった。

今年から「システム思考+デザイン思考」のワークショップを取り入れ、慶應SDMらしさをこれまで以上に強めたことが特徴である。リーダーシップのためのコミュニケーション力強化として行われたプレゼンテーションでは、発表が深夜にまで及ぶというハードワークを耐え抜き、異業種でありながらも心打ちとける研修仲間となった受講者たちは、修講式において今後も交流を続けることを誓い合ってそれぞれの職場へと帰って行った。今年度よりイーラーニングシステムを取り入れ、研修後のフォローアップも行っている。

## TOPIC 5 フジサンケイビジネスアイ 記事掲載



SDM研究科は、在職社会人に訴求することを目的に、2012年10月から11月にかけて、フ

ジサンケイビジネスアイに連載コラムを掲載した。10月16日にはキリンホールディングス執行役員人事総務部長・三好敏也氏と前野隆司研究科委員長による対談「社会変えるイノベティブな人材、どう育成するか」が掲載された。

その後も、当麻哲哉准教授が「木も見て森も見るリーダー育成」、西村秀和教授が「境界を越えて、実践する力を」、林美香子特任教授が「農都共生ラボ」を、手嶋龍一教授が「公の要となるデザインをする」と題して、それぞれ1ページにおよぶコラムを掲載した。

また、同紙記者が10月7日から4週にわたって開催された公開講座慶應イノベティブデザインスクール(Open KiDS)に参加し、参加レポートや一般参加者の感想を取材し、Open KiDSの概要を含めて8ページに渡る特集記事を掲載した。

これらの記事はSDM研究科のWEBページニュース欄にリンクしているので、ぜひご一読いただきたい。

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/12/10-095735.html>

## TOPIC 6 公開講座「デザインと経営の未来」vol.2



事例に聞き入る参加者のみなさん

SDM研究科では2012年11月6日(火)に、公開講座「デザインと経営の未来」vol.2を行った。今回は、株式会社和僑商店の葉茸正幸社長をお招きして、アイデアからコンセプトを生み出しソリューションに昇華させるプロセスについて、本質的な価値の見出し方やそれを事業化するための方法、事業としての地域活性化などの観点からお話し頂いた。また現在取り組まれている新潟の酒蔵復興の事例を元に、伝統的な産業を現代的な視点を取り入れて再生する方

法についてもお話し頂いた。本質的な価値を見出しブランディングしていくプロセスについての写真やデータを元にした説明は非常に明快であり、参加者の興味を引いていた。また、注目されている経営者の話ということで、終了時刻を過ぎても質疑応答が終わらない盛況ぶりであった。参加者からは「地域を巻き込んだ事業構築の具体的な事例を聞ける機会は貴重であり、SDM研究科らしい講演」と非常に高い評価を得た。

## TOPIC 7 ヒジノ・ケン准教授講演会、SDM研究科説明会を開催

2012年11月7日(水) 午後6時から、ヒジノ・ケン准教授の講演会「良い政治とは？政局、政策、制度から統治機構のシステム・デザインへ」およびSDM研究科説明会が、三田キャンパスの南館で開催され、40数名の入学希望者などが参加した。

講演では、政治の良し悪しを決めるのは政治家個人の資質なのか、個別政策の内容な

のか、それとも政治が行われる仕組みと手順なのか、ヒジノ准教授が聴講者に問いかけた。民主主義的な決定にたどりつくプロセスやルールはいろいろあり、その制度(選挙制度、議会運営、立法方法、予算編成)をどのようにデザインすれば、政治プロセスがうまく機能できるのかをスウェーデンや英国の例を紹介して考えていただいた。また、政治家や政党はど

うあるべきか、十個のアンケート質問に答えてもらい、意見を述べていただいた。結論として日本における「政治制度改革」の盲点やSDMの力であるシステム的な視点での改革案の重要性を解説した。

その後の研究科説明会では当麻哲哉准教授がSDMの説明を行い、個別に質問を受け、大盛況のうちに説明会が終了した。

## TOPIC 8 社会イノベーションのノウハウ～事例に学ぶポートフォリオ・プログラムマネジメントセミナー

慶應SDMの修了生および在学生を対象として、2012年11月11日(日)の終日を使って、ポートフォリオ・プログラムマネジメントセミナーを開催した。慶應SDMの学生は、PMBOKに基づいてプロジェクトマネジメントを学ぶが、実際の業務では複数のプロジェクトをマネジメントする事が多いのが実情である。このように、

関連した複数のプロジェクトをまとめて管理する概念としてプログラムマネジメントがある。更に、企業の戦略に基づいて、どのようなプロジェクト、プログラムをどのように構成して実施していくかについての考え方としてポートフォリオマネジメントというものがある。本セミナーは、一般社団法人PMI日本支部から講師を派

遣いただき、「ラ・フォル・ジュルネ」というクラシック音楽イベントを題材として約20名の参加のもとワークショップ形式で開催された。慶應SDM修了生からは、今後も引き続き本セミナーのように新しいことを学ぶ機会を用意してほしいとの意見を頂いた。

## TOPIC 9 慶應SDM公開講座 "Space Applications" 「宇宙の利用法」Stoewer氏講演



講義中のStoewer氏

2012年11月13日の午後に、Heinz Stoewer教授をお招きして、「宇宙の利用法」をテーマに公開セミナーを開催した。この公開講座では、世界における宇宙開発、とりわけ通信サービスと地理情報・監視サービスへの応用に関して現状と将来性について、Heinz Stoewer教授による講演を行い、各分野の概観を紹介した後で、聴講者との討論を行い、この分野に関わる課題や展望についてディスカッションを行った。参加

者には宇宙開発に関する国の機関、メーカー、利用会社、あるいは全く宇宙開発に関係していない人など幅広く参加しており、多様な意見を持った人による意見交換が行われた。

参加者からは、大学という場において多様なステークホルダによるディスカッションは大変有意義であるので、引き続き実施して頂きたいとのコメントが寄せられた。

## TOPIC 10 『ダイアログとデザインの未来Vol.6 ～ソーシャルデザインの未来～』を開催



greenz.jp編集長の兼松氏のプレゼンテーション

SDM研究所とグローバルCOEプログラム「環境共生・安全システムデザインの先導拠点」では、『ダイアログとデザインの未来』をテーマとした公開講座フューチャーセッションを2012年6月から開催してきた。

6回目となる11月14日(水)には、「ソーシャルデザイン」をテーマに、株式会社umari 代表の古田秘馬氏とgreenz.jp編集長の兼松佳宏氏を講師として招き、セッションを行った。

「ソーシャルデザイン=モノの見方を変えて、新しい価値の創出すること」とする古田氏からは、自身が手がけられた様々な地域活性化の事例が紹介された。一方、「ソーシャルデザイン=社会的な課題解決と同時に、新たな価値を創出する画期的な仕組みを作ること」とする兼松氏からは、greenz.jpにて取材した画期的なプロジェクト事例が紹介された。

80名を超える参加者からは、質問や提案が相次ぎ、大盛況のセッションとなった。また参加

者の満足度も高く、「ぜひ自分自身のプロジェクト(マイプロジェクト)を始めたい」とのアクティブなコメントが多数寄せられた。

フューチャーセッションは来年3月まで毎月開催をする予定。SDMのホームページ(<http://www.sdm.keio.ac.jp/>)で募集致しますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。



株式会社umari代表の古田氏のプレゼンテーション

## TOPIC 11 2012年度デザインプロジェクトが無事終了



最終発表をする学生たち

SDM研究科の必修科目であるデザインプロジェクトの2012年度最終回が11月24日、25日に開催された。最終回では、12の学生グループが、プロポーザーの企業および自治体から提案していただいたテーマを、プロポーザーと共に検討し、その結果を発表した。

今年度は、6月と7月のラーニングフェーズで考え方・方法論・手法を座学で学び、8月から9月前半のアクティブラーニングフェーズでその手法を経験した後に、9月後半から11月前半の

リアルイノベーションフェーズでテーマに関連するプロダクトあるいはサービスについてより具体的な検討を行ったので、最終発表では、イノベーションを巻き起こすような数多くの優れた提案が行われた。

25日夜の懇親会では、優秀な提案をしたチームが表彰され、インフラインノベーショングループAに前野賞、ツネイシグループAに白坂賞、横浜市グループAに春山賞、横浜市グループBに保井賞、東芝グループBに気合と根性賞が贈られた。

## TOPIC 12 ダuncan・ムーア教授のテクニカル・アントレプレナーシップ開催



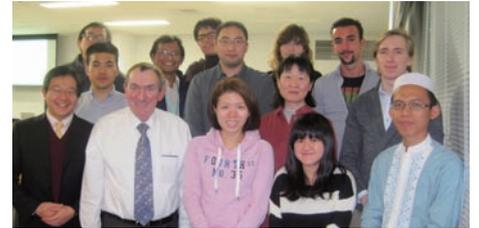
学生のプレゼンテーションにコメントするムーア教授(左)

2012年11月27、28日と12月1日の3日間にわたり、毎年恒例のテクニカル・アントレプレナー

シップの講義が、ロチェスター大学のDuncan・ムーア教授によって行われた。英語で行われる本講義は、本年度は留学生の数が多くもあって、これまで最も履修者数が多いものとなった。講義ではムーア教授が起業した会社の事例などを具体的に挙げながら、マーケティングからファイナンシャルや知的財産まで幅広い内容を、わかりやすく解説された。

また演習課題として、学生がペアを組んで新しいアイデアから事業を立ち上げるプレゼン

テーションを行い、慶應SDMらしい多視点で提えた多様なビジネス提案が相次いだ。



履修生と当麻准教授(前列左)とムーア教授(2番目)

## TOPIC 13 Hiyoshi Research PortfolioおよびHiyoshi 3.0開催報告



参加型ワークショップの様子

日吉キャンパス所属教員の研究教育の成果発信を目的として、11月9日、10日の両日にHiyoshi Research Portfolio 2012 が開催され、神武直彦准教授およびSDM研究科の学生が中心となり、日吉キャンパスのあるべき姿を考える3部構成 Hiyoshi Research Portfolio 2012レポート:

▶ <http://hrp.hc.keio.ac.jp/report2012.html>

のワークショップ「Hiyoshi 3.0:キャンパスをキャンパスに!」を開催した。第1部「日吉ビジョンを振り返る」では、湯川武名誉教授と羽田功経済学部教授より、1990年代後半に日吉キャンパスで議論された「21世紀キャンパス構想」の紹介がなされ、第2部「未知なる日常の連続と連携へー日吉キャンパスツアー」は、日吉キャンパスの広大な敷地に展開する多様な活動の現場を見学しながら、その可能性と課題を発見する目的で行われた。そして、第3部「参加型デザイン・ワークショップ」では、第1部と第2部で得た知見や議論を踏まえ、日吉キャンパスの新しい活用方法のアイデアを創

Hiyoshi3.0版日吉キャンパスマップ:

▶ [http://hrp.hc.keio.ac.jp/img/hrp2012/HRP2012\\_campusMap.pdf](http://hrp.hc.keio.ac.jp/img/hrp2012/HRP2012_campusMap.pdf)

出することを目的として、参加者による協働作業を行った。参加者は、「IntroMatrix」や「ブレインストーミング」、「シナリオグラフ」といったアイデア発想手法を使いながらグループごとにアイデアを創出し、「エレベーターピッチ」によってその成果を全員で共有した。その後、参加者が各自で「Hiyoshi3.0企画書」シートにアイデアを記入し、それらを掲示して参加者同士で議論し合う「ギャラリーウォーク」を行い、イノベティブなアイデア、実現性のあるアイデアなどをレビューした。組織を越えた親交が深まり、100以上のアイデアが出たことなど、大きな収穫があった。

## TOPIC 14 連続宇宙公開講座第5回「宇宙を使う:宇宙イノベーションによる未来デザイン」



SpaceInnovative.comとして協働した参加者

2012年11月4日に渋谷ヒカリエ8/(はち)COURTにおいて、連続宇宙公開講座「宇宙を使う:宇宙イノベーションによる未来デザイン」を開催した。神武直彦准教授が講師を務め、宇宙分野でイノベーションを起こすためには、また、宇宙分野の成果を利用してイノベーションを起

こすためにはどうすればよいかを参加者との協働で考えるということを目的に実施した。トークセッションでは、JAXA神吉誠志氏、博報堂DYメディアパートナーズ小野勝彦氏、多摩美術大学久保田晃弘教授、マップコンシェルジュ古橋大地氏が、JAXAでのイノベーション活動や、超小型人工衛星でのSpace\_Creative\_Spaceプロジェクト、衛星芸術プロジェクトARTSAT、宇宙データを使ったInternational Space Apps Challengeについて紹介した。その上で、宇宙を使ったイノベーションのアイデア創出のための協働作業を行った。コクヨ齋藤敦子氏がファシリテータを務め、特別に作成した「宇宙カード」を使っのアイスブレイ

ク、アイデア創出を行った。その後、それぞれの参加者が仮想の会社「SpaceInnovation.com」の一員として簡単な企画シートをまとめ、それらのアイデアを共有することで公開講座を修了した。



協働作業に利用した「宇宙カード」



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究科

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館

Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: [sdm@info.keio.ac.jp](mailto:sdm@info.keio.ac.jp)

お知らせ 今月のラボ紹介は、お休みします。